

事例研究、ケース・スタディ (case study)

少数の特定の調査単位(事例、ケース)について、複数の手法を用いて、その特質を詳細かつ多面的に明らかにするための調査手法

“Case study is an ideal methodology when a holistic, in-depth investigation is needed.”

(Feagin, J., Orum, A., & Sjoberg, G. (Eds.). (1991) *A case for case study*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.)

- ・ 調査票調査＝定量分析における代表的な手法
- ・ ケース・スタディ＝定性分析における代表的な手法

ケース・スタディの特徴

① 名前(ラベル)が重要

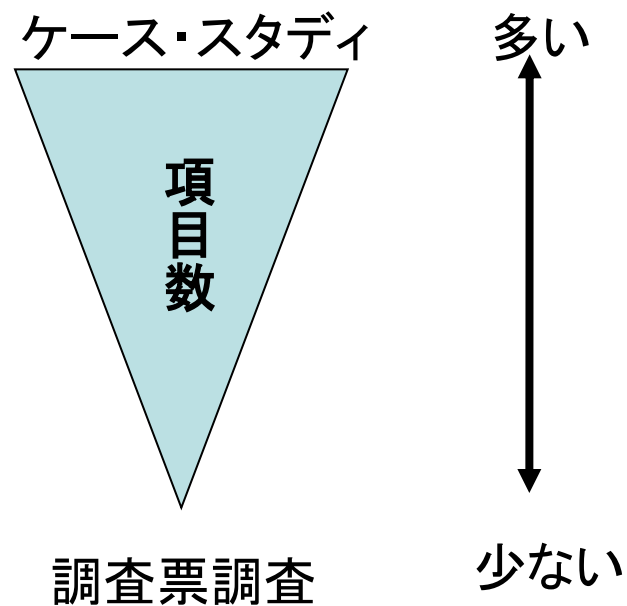
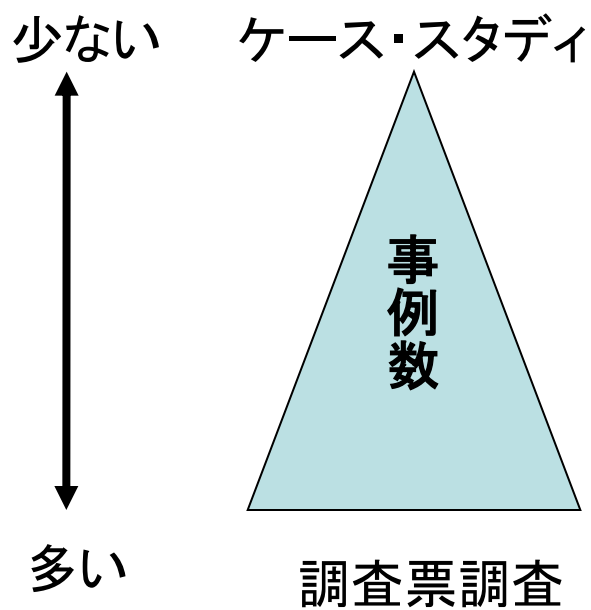
調査票調査の場合

順位	選手	打率	試合	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打点	盗塁	四球	死球	三振	長打率
1	今岡 誠 (阪 神)	0.340	120	485	67	165	35	1	12	72	1	28	2	52	0.491
2	ラミレス (ヤクル)	0.333	140	567	105	189	34	3	40	124	4	34	6	104	0.616
3	矢野 輝弘 (阪 神)	0.328	126	433	65	142	25	5	14	79	1	38	8	84	0.506
4	高橋 由伸 (巨 人)	0.323	118	443	85	143	31	1	26	68	3	38	3	59	0.573
5	鈴木 健 (ヤクル)	0.317	135	482	67	153	36	0	20	95	2	56	6	84	0.517
6	シ ー ツ (広 島)	0.313	136	514	77	161	32	1	25	75	3	43	4	118	0.525
7	福留 孝介 (中 日)	0.313	140	528	107	165	30	11	34	96	10	78	4	118	0.604
8	赤星 憲広 (阪 神)	0.312	140	551	90	172	17	7	1	35	61	45	14	76	0.374
9	鈴木 尚典 (横 浜)	0.311	133	492	67	153	30	0	19	57	6	24	6	83	0.488
10	金城 龍彦 (横 浜)	0.302	136	549	78	166	26	1	16	40	4	33	4	60	0.441
11	藤本 敦士 (阪 神)	0.301	127	402	51	121	16	7	0	36	9	26	2	42	0.376
12	二岡 智宏 (巨 人)	0.300	140	573	88	172	18	1	29	67	14	31	3	92	0.487
13	緒方 孝市 (広 島)	0.300	136	530	75	159	35	0	29	82	8	42	11	100	0.53
14	アレックス (中 日)	0.294	137	507	83	149	28	0	21	65	5	47	8	91	0.473
15	前田 智徳 (広 島)	0.290	128	427	50	124	14	2	21	71	2	35	3	45	0.48

ケース・スタディの場合

順位	選手	打率	試合	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打点	盗塁	四球	死球	三振	長打率
1	今岡 誠 (阪 神)	0.34	120	485	67	165	35	1	12	72	1	28	2	52	0.491
2	ラミレス (ヤクル)	0.333	140	567	105	189	34	3	40	124	4	34	6	104	0.616
3	矢野 輝弘 (阪 神)	0.328	126	433	65	142	25	5	14	79	1	38	8	84	0.506
4	高橋 由伸 (巨 人)	0.323	118	443	85	143	31	1	26	68	3	38	3	59	0.573
5	鈴木 健 (ヤクル)	0.317	135	482	67	153	36	0	20	95	2	56	6	84	0.517
6	シ ー ツ (広 島)	0.313	136	514	77	161	32	1	25	75	3	43	4	118	0.525
7	福留 孝介 (中 日)	0.313	140	528	107	165	30	11	34	96	10	78	4	118	0.604
8	赤星 憲広 (阪 神)	0.312	140	551	90	172	17	7	1	35	61	45	14	76	0.374
9	鈴木 尚典 (横 浜)	0.311	133	492	67	153	30	0	19	57	6	24	6	83	0.488
10	金城 龍彦 (横 浜)	0.302	136	549	78	166	26	1	16	40	4	33	4	60	0.441
11	藤本 敦士 (阪 神)	0.301	127	402	51	121	16	7	0	36	9	26	2	42	0.376
12	二岡 智宏 (巨 人)	0.3	140	573	88	172	18	1	29	67	14	31	3	92	0.487
13	緒方 孝市 (広 島)	0.3	136	530	75	159	35	0	29	82	8	42	11	100	0.53
14	アレックス (中 日)	0.294	137	507	83	149	28	0	21	65	5	47	8	91	0.473
15	前田 智徳 (広 島)	0.29	128	427	50	124	14	2	21	71	2	35	3	45	0.48

② 事例数と項目数



ケース・スタディの特質

strategy	form of research question	requires control over behavioral events?
case study	how, why	no
survey	who, what, where, how many, how much	no
experiment	how, why	yes
archival analysis	who, what, where, how many, how much	no
history	how, why	no

ケース・スタディの注意点

① 教育におけるケース

- ・ ケースとしての重要性→厳密性低い
- ・ エビデンスのクローズアップ

② 研究におけるケース

- ・ ケースとしての重要性→厳密性高い
- ・ すべてのエビデンスは公平に評価

ケース・スタディにおける研究方法

過程追跡(process tracing)

- 詳細な叙述(detailed narrative)
 - 因果的叙述(narrative accompanied with explicit causal hypothesis)
 - 分析的叙述(analytic narrative)
 - 汎用的説明(more general explanation)
-
- The diagram uses vertical curly braces on the right side to group the four types of process tracing into two categories. The first category, '結果説明型 過程追跡' (Result Explanation Type Process Tracing), groups '詳細な叙述' and '因果的叙述'. The second category, '理論構築型 過程追跡' (Theory Building Type Process Tracing), groups '分析的叙述' and '汎用的説明'. A third brace is positioned below the second category, labeled '理論検証型 過程追跡' (Theory Verification Type Process Tracing), which is not directly associated with any of the four listed types.
- 結果説明型
過程追跡
- 理論構築型
過程追跡
- 理論検証型
過程追跡

ケース・スタディの強み

- ① 複雑な現実下における記述
- ② 複雑な現実下における因果関係の説明

ケース・スタディの問題点

- ① データ収集の方法

時間が掛かる、情報量が多い、調査者の力量の差e.g.インタビュー、内部資料

- ② 少数事例の問題 (small-N problem)
- ③ 探索的研究 > 記述的研究 > 説明的研究

少数事例の問題 (small-N problem)

説明に関する変数の数に比し、事例の数が少ない問題

- ・ 観察の数よりも多い推論を行うことはできない (KKV, 1994, p.119)
- ・ 少数事例に基づく理論は、他の事例によって反証されやすい

量的分析と質的分析は同一の論理で行われるべきか、
それとも質的分析には別の論理があり得るのか

理論と実証のジレンマ

① 理論＝単純 VS 現実＝多様

- 単純な理論を追求→現実の多様な側面の説明が困難
- 多様な現実を説明→複雑で分かりにくい理論

② 操作化 (operationalization)

- 数値化が可能な量的分析に比し、操作化において厳密性を追求しにくい
- 検証において統計的手法が用いることができない

③ 確率論or決定論

- 量的分析＝確率論 VS 質的分析＝決定論 → 少数事例の問題

統計的一般化と分析的一般化

① 統計的一般化 (statistical generalization)

母集団→無作為抽出 (random sampling)→標本 (sample)

標本の代表性

② 分析的一般化 (analytic generalization)

選択的に選ばれた事例 (case)

代表性は有しない

同条件下で同現象について再現可能＝分析的一般化

法則定立的アプローチと個性記述的アプローチ

法則定立的アプローチ (nomothetic approach)

＝実験や調査から得られた結果をもとに分析、考察を行う

→事象の普遍性やそこに見られる特性を自然法則的に把握を試みる方法

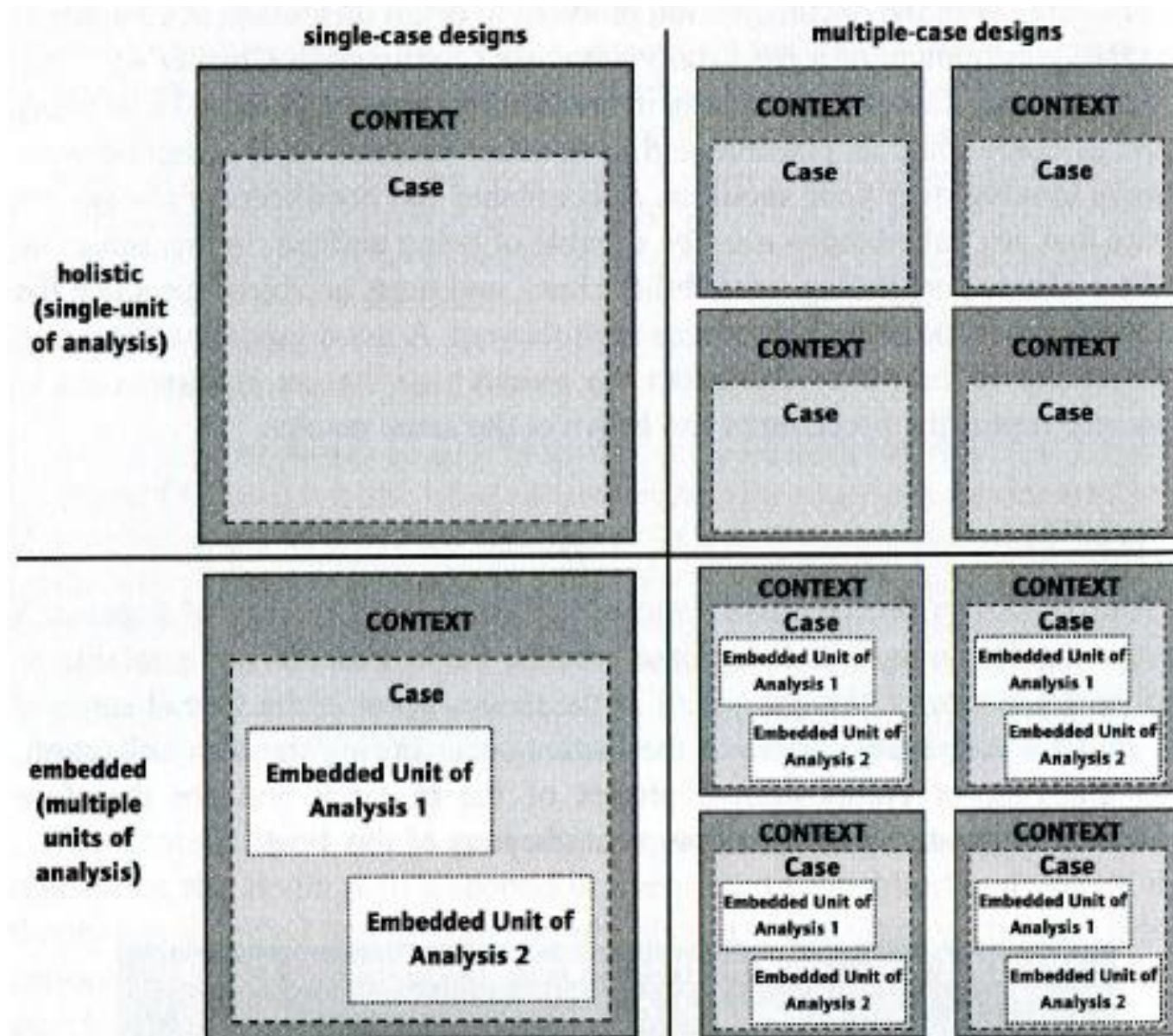
個性記述的アプローチ (idiographic approach)

＝個人を詳細に記述する

→現実や実態、それらの内容をそれぞれの独自性や形態において把握し、
個性記述的に検討する方法

- ① 比較的長い時間の経過の間に発生する変化を把握することに優れている
- ② プロセスを説明することに優れている
- ③ 事象における複雑な要因を質的、構造的に捉えるのに優れている
- ④ 仮説を発見し、課題を明確にする
- ⑤ 個を通して普遍性を追求する

ケース・スタディの設計



単一事例の選択

- 決定的事例 (critical case)
- 極端な事例、ユニークな事例 (extreme case or unique case)
- 代表的／典型的事例 (representative or typical case)
- 啓示的事例 (revelatory case)
- 長期的研究事例 (longitudinal case)

決定的事例(critical case)

- most likely case method
- least likely case method
- deviant case (逸脱事例)

複数事例の選択

- 同様の結果が予測される場合（一致法）
- 対照的な結果が予測される場合（差異法）

→ 標本の論理からではなく、追試(replication)の論理から

一致法 (method of agreement)

何が腹痛を引き起こしたか－医師の問診

区 分	A君	B君
症 状	腹 痛	腹 痛
<u>食 事</u>	<u>刺 身</u>	<u>刺 身</u>
睡眠時間	8時間	6時間
職業	ブルーカラー	ホワイトカラー

高福祉の原因は？

区 分	スウェーデン	ノルウェー
特 徴	高福祉	高福祉
<u>労組組織率</u>	<u>高い</u>	<u>高い</u>
石油資源	なし	あり
政権	革新	保守

差異法(method of difference)

何が自殺率の差を説明するのか

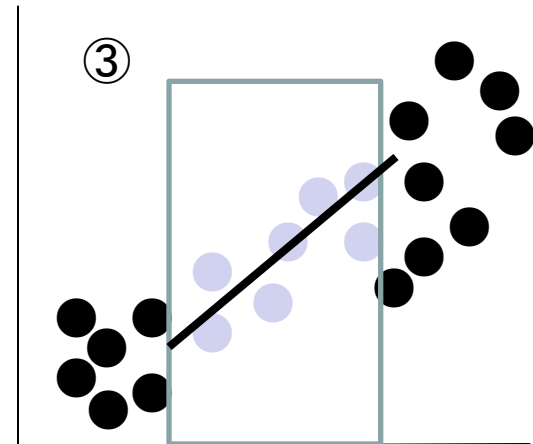
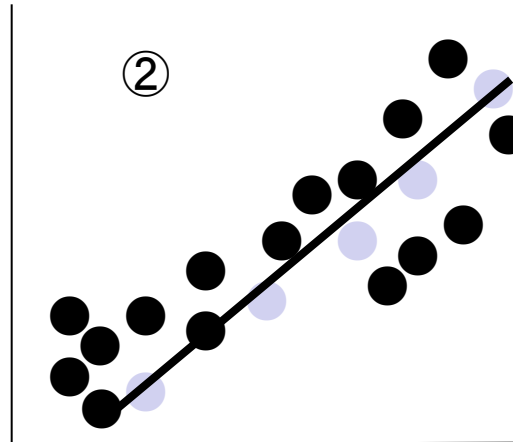
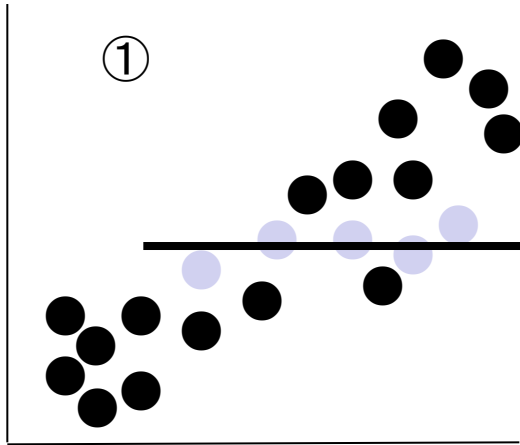
区 分	カトリック地域	プロテスタント地域
自殺率	低い	高い
<u>宗派</u>	<u>カトリック</u>	<u>プロテスタント</u>
他の変数	同じ	同じ

高福祉の原因は？

区 分	アメリカ	スウェーデン
福祉	低い	高い
<u>労組組織率</u>	<u>低い</u>	<u>高い</u>
経済水準	高い	高い
政治体制	資本主義	資本主義

方法	事例	独立変数						従属変数	原因
一致法	イ	α	A	a	y	$\cap$	○	y	
	ロ	β	B	b	y	$\cup$	○		
	ハ	γ	C	c	y	ϕ	○		
差異法	イ	α	A	a	y	$\cap$	○	y	
	二	α	A	a	p	$\cap$	×		
一致差異併用法	イ	α	A	a	y	$\cap$	○	y	
	ロ	β	B	b	y	$\cup$	○		
	ハ	γ	C	c	y	ϕ	○		
	二	α	A	a	p	$\cap$	×		
共変法	Et ₁	δ	ε	ζ	x	η	R	δ	
	Et ₂	2 δ	ε	ζ	x	η	2R		
余剰法	Et ₁	δ	ε	ζ	x	η	R	S+ δ	
	Et ₃	S	2 δ	ε	ζ	x	η		3R

事例選択のバイアス



分析単位

① 全体的(分析単位＝単一)

- ・ 検証の対象が全体である場合、下位の分析単位が識別困難な場合
- ・ 抽象的な分析に終わる危険

② 部分的(分析単位＝複数)

- ・ より詳細な分析
- ・ 「木を見て森を見ざる」に終わる危険